あなたの障がい者への見方・捉え方は大丈夫?

6. マイクロアグレッション

① 「わたしにはできない」「あなたは選ばれている」と言う

●例えば、「あなたはすごい。わたしにはできない」と障がい児を育てている家族に言ったり、「困難は乗り越えられる人にしか与えられない。あなたは選ばれた人だ」と本人に言ったりする。
●悲劇のヒロイン・ヒーローのような存在としての側面が表れています。

② 「障がいなの?見えないね」「普通に見えるよ」と言う

●例えば、内臓に疾患があったり、ある一定の状況に置かれないと症状が現れなかったりする場合があります。
●障がいといえば車いす、杖など見てわかるような状態の場合と、見えづらいものも多々あります。
●外見では分からないだけで、社会的な制限・抑圧を受けている人がいます。

③ 「いつか治る」「早く治るといいね」と言う

●例えば、障がい児の幼少期などに言われることが多い言葉のひとつです。
●“正常が何よりもよいこと”という考え方は、そもそも「障がい」はどこにあるかということを問い直さないといけません。

④ 大人なのに子ども扱いをする

●例えば、服売り場に服を買いたいと思っている車いすの人が介助の人と行ったとき、店員はなぜか介助の人にしか話しかけないということが度々起きています。
●障がいがある人=決定権がないと周りが勝手に判断しています。

⑤ 「障がい=かわいそう」という決めつけ

●例えば、街や電車の中で、障がいがある人がいた場合、言葉に出して何か言わなくても、視線や表情で哀れんで見られていると感じている障がい者は多くいます
●「心身の機能に障がいがあること」と、「不幸であること」はイコールではありません。「かわいそう」ということは、社会との相互作用や、その人の生き方、人権を無視して「苦痛が多い」という側面のみ強調し、人間関係から切り離してしまう行為です。

これらは、障がいがある人なら一度は経験をしていると思われる言動で、**「マイクロアグレッション」**と言われています。

「マイクロアグレッション」は、1970年代に精神科医によってつくられた言葉です。黒人と白人のコミュニケーションの多くに、白人が無自覚に行う「けなし put downs」があることに注目して名付けました。

直訳すると「小さな攻撃」という意味があります。日々のありふれた言葉、行動又は環境の面での侮辱的な行為で、意図的かどうかにかかわらず、軽視し侮辱するような敵対的、中傷的、否定的な、言動や行動のことをいいます。「明らかに差別だ」とは判断しにくいものでありながら、相手を傷つけてしまう可能性を含んでいます。